

2007 年度

| | | |
|--|----------------------|------------------|
| 科目名 フィールドワーク I B | 対象学科・学年 文学部日文2 回生 | 担当者 鈴木 利一 |
| 授業テーマ 韓国の世界文化遺産に日本文化の源流を訪ねる。 | | |
| 授業の概要と目標 「大陸文化伝来の道」をテーマに韓国各地を訪れ、日本と韓国とに共通する文化やその差異を探ります。日本文化の黎明期には、先進的な大陸文化の多くが朝鮮半島経由でもたらされました。そのため、両地域の古代遺跡や文化遺産を見比べた時、そこには大変多くの共通点があることに驚かされます。現地で実物を直接目にするにより、今一度自分たちの文化をふりかえてみたい。それが、このフィールドワークの目指すところです。 | | |
| 評価方法 講義への出席状況 (40%)、課題の提出状況 (40%)、課題に取り組む姿勢 (20%) 等を勘案し、総合的に判断します。 | | |
| テキスト | 著者 | 出版社 |
| 参考書 | 著者 | 出版社 |
| 授業スケジュール・内容 実地調査の目的地は、新羅の古都慶州、東洋式古印刷術の故郷である清州、そしてソウルを踏査する予定です。フィールドワーク I Bでは、その実施段階と事後指導として以下の日程で講義を進めます。 3. 第2次現地踏査 (9月上旬) 韓国内の現地踏査を、約1週間の予定で実施します。 4. 事後指導 (10月～1月：集中型講義と個別指導) 現地踏査での記録やメモをもとに、フィールドにおける学びや理解を再確認します。 5. レポート作成 (10月～1月) 年間の活動成果をレポートにまとめます。このレポートの提出をもって、最終の評価対象として認めます。 実地調査にあたっては、出来る限り古代人のたどった道筋そのままを、現代の交通機関を使ってソウルまで行き着くよう努力します。そのため往路には国際フェリーを利用して船で玄界灘を渡り、韓国国内での移動は、現地の公共交通機関を利用するなどして、旅行社に頼らない旅作りを目指します。また、宿泊先も安全性と衛生面には十分に配慮しますが、現地の普通の人々が利用する、安価で簡素な旅館を利用する予定です。この講義を通して、自ら企画し自ら手配する、手作りの旅の自由さや楽しさも知ってもらえたいと考えています。また、大田では、現地大学の日本語教員の方々の協力を得て、日本語を専攻する学生との交流を行う予定です。日韓の学生同士による同世代交流を通じて、相互理解を深めたいと考えています。帰国後、インターネットを利用した相互通信を、eラーニングの観点から模索してみたいと考えています。 ※講義は変則的かつ集中的に行われますので、当日は必ず出席してください。 | | |